

明石ダコ保護寄付金で

ふるさと納税 産卵用のつぼ設置増

明石市は、ふるさと納税の使い道に、近年、漁獲量の減少に見舞われている特産の明石ダコ^①の保護を加えた。返礼品に、市内にある大手メーカーの工場で生産された日用品などを追加したところ、今年度の納税額（昨年11月時点）が前年度通年の約5.7倍に急増したため、産卵用に海に投入するダコつぼを増やすなど対策を強化する。

市はふるさと納税の使い道はこれまで、①障害者や犯罪被害者などの支援②子育て支援③天文科学館などの魅力向上④2019年の市制100周年の施策⑤明石商高のスポーツなどの環境整備⑥市長におまかせの6種類の施策から選ぶことができた。

市は昨年7月から、返礼品に市内の米日用品大手プロクター・アンド・ギャンブル(P&G)・ジャパンの子ども用紙おむつ・パンパースなどを追加。今年度の納税額が昨年11月14日時点で3063万円(1414件)と、前年通年の538万円(170件)を大きく上回



海に産卵用のダコつぼを投入する明石浦漁協の漁師ら(明石市の明石浦漁港)

っている。パンパースに続き、釜あげ明石ダコ^②が2番目の人気という。市によると、明石海峡で取れるマダコは例年、年間

夏場にマダコが流れ、エビやカニが濃厚で食べられる。潮が濃くなると、うまみがある。沖で水揚げされるエビやカニが豊富で、歯ごたえも強い。明石海峡は海が浅く、潮が濃くなることから、うまみがある。沖で水揚げされるエビやカニが豊富で、歯ごたえも強い。明石海峡は海が浅く、潮が濃くなることから、うまみがある。沖で水揚げされるエビやカニが豊富で、歯ごたえも強い。

1000トの水揚げがあり日本一の漁獲量を誇る。ただ、16年以降は、700ト程度に減少し、さらに深刻な不漁が続いているため、市はマダコの保護の強化に乗り出す。今年度中に、1000万円の寄付を集めることを目指す。市は産卵や生育の場作りのために、1966年からダコつぼの投入を続けてお

り、今年度も2708個を設置。昨年11月末には緊急対策として1000個を追加した。このほか、マダコや保護の取り組みを紹介するパンフレットの作成なども検討している。市シティセールス課は「全国の人に保護活動を知ってもらい、応援してもらいたい」としている。問い合わせは同課(078・918・5247)。

明石市制100周年

シンボルマーク

6件のうち最終審査に残った5件について投票。最多の約5000票を集めた神戸市須磨区の公務員、吉岡麻衣さん(22)が作製したマークが選ばれた。市は、100周年を祝う各事業でマークを使うほか、商品のパッケージやチラシ名刺などへの利用(無料)も認める。担当者は「カラフルなマークで一緒に100周年を盛り上げたい」としている。使用には事前手続きが必要で、問い合わせは市(078・918・5280)。



明石市制100周年のシンボルマーク

1租男子 水産系志望
2019.1.15